

「子ども達の笑顔を育む地域と学校の連携・協働とは

～真庭市・真庭市立余野小学校・真庭市立天津小学校の取組を通して～

令和7年8月27日（水）に「地域と学校の連携・協働へ向けた研修会」を開催しました。地域学校協働活動推進員、学校運営協議会の委員、家庭教育支援者、学校ボランティア、教職員、行政職員など幅広い立場の方々、約70名の参加がありました。研修会では、真庭市からの実践発表に続き、行政説明、その後グループに分かれ、情報交換や協議を行いました。改めて学校と地域が目標やビジョンに向かって熟議、対話を重ねることの大切さを共有しました。

「真庭市の地域学校協働活動の推進体制～m-CoCoAの取組を通して～」

「学校と地域の協働を通じて余野のファンをつくる！」

「笑顔でわくわく
みんなでつながる天津っ子
～地域と学校、思いはひとつ～」



【真庭市教育委員会生涯学習課】

大久保 孝晃 主事（左）

辻 祥恵 統括推進員（右）

☆真庭市では 地域学校協働活動統括推進員を配置し、研修会議「m-CoCoA」の運営、各校区の推進員の伴走支援をしています。市として体制を整え、組織的に推進員同士のつながりづくり、情報共有による活動の活性化を図っています。



【真庭市立余野小学校】

藤田 亮太 推進員（左）

内田 和子 教頭（右）

☆余野小学校では 復活した地域の行事（霜月祭）を教育課程に位置付けました。「餅米作り」にも取り組み、祭り前日の餅つきは土曜授業としました。地域と学校が目標とビジョンを共有し、対話を重ね目的意識を持った協働活動を展開しています。



【真庭市立天津小学校】

上山 京子 推進員（左）

木下 聡子 校長（右）

☆天津小学校では 学校と地域が思いをひとつに「天津音頭」を、教育計画に位置付け、地域の方々が子ども達に伝承しました。家族や地域の皆さんとの運動会での総踊りのみならず、夏の盆踊りでも親子の参加が増え、地域が元気になっています。



余野小学校・天津小学校は、学校目標や目指す子ども像を地域と共有している。そしてそこに向かって熟議、対話を重ね、協働活動を教育課程、教育活動に位置付けられている。決して活動ありきではない。地域と学校が熟議、対話、会話により同じゴールをイメージすることが重要。

【地域学校協働活動
アドバイザー】
安田 隆人氏



Let's TAIWA!

地域ぐるみで育む子ども達の未来のために、会話、対話しましょう！

感想

- ・他の地区の活動を知ることは大切。子ども達をまん中にして、学校と地域とで目標をしっかり共有していきたい。
- ・色々な立場の方としっかりと対話することの大切さを学んだ。子ども達の意見をすいあげ、「子どもまん中」の取組にしたい。
- ・他の学校の取組の様子は大変参考になるので、これからも事例を聞かせていただきたい。